

郷松波村鎮座。舊社也。』とある。

マツナミヨシチカ 松波義親 通稱常陸介。天正五年九月畠山氏の七尾城の陥落するや、義親は神保周防長頼・河野肥前・熊木兵部等と珠洲郡松波城に通れ、一揆を催促して最後の氣勢を擧げたが、越將長澤光國之を圍み、周防・兵部は戦死し、義親は自刃して城遂に陥つた。肥前は獨脱してその領邑羽咋郡堀松に退かんとしたが、亦光國の爲に追はれて戦死した。

マツネ 松根 河北郡五ヶ庄に屬する部落。マツネゴエ 松根越 ↓ヲハラゴエ 小原越。

マツネジヨウ 松根城 河北郡松根の山嶺に在つて、越中彌波郡に隣り、金澤を去ること二〇軒。天正年中佐々成政は杉山主計を遣はして茲を守らせたといふ。

マツノイツカク 松野逸角 父は檢校であつた。享保九年召出され、二十人扶持を受けて組外に列した。子孫相繼いで藩に仕へる。マツノキ 松ノ木 羽咋郡堀松庄に屬する部落。

マツノゴテン 松之御殿 前田齊泰の嫡母眞龍院天保九年八月金澤に下り、後その城内の居所を松之御殿といふた。

マツノコエ まつの聲 ↓チヨニクシユウ千代尼句集(二、はい、かい、まつ)の聲)。

マツノヤスチカ 松野泰近 通稱源左衛門。父逸角の遺知二十人扶持を襲ぎ、定檢地奉行。改作奉行を經、天明五年新知百三十石を受け能美郡代官となり、享和二年六月廿八日隱居して幽譚と號した。

マツノリヨウエイ 松野了英 諱は知見、

了英はその通稱である。醫を鈴木了益に學び、溫柔敦厚最も施與を好み、寛政四年六月享年五十六を以て歿。長子實は鈴木木を嗣ぎ、次子貞その家を襲いだ。

マツノヲヤマ 松尾山 鹿島郡矢田郷なる畠山氏の據つた七尾城山を松尾山ともいふ。能登誌に『陸しげき松の尾山の松の葉のかくともつきぬ君が萬代 勳文』

マツバナ 松花 金澤地方で正月の佛壇に捧げる松の小枝で作つた立花をいふ。

マツハマ 松濱 河北郡金津庄に屬する部落。

マツバヤシ 松囃子 ↓ウタヒヅメ 謠初。マツバラアリユキ 松原有之 通稱牛之助。牛兵衛。寛政十二年父元右衛門貞忠の遺知二百五十石を襲いで組外に列し、次いで大小將・明倫堂謝師・大小將横目より遂に御馬廻頭に至り、文政五年百石を加へ、天保元年八月廿六日歿した。

マツバライザエモン 松原伊左衛門 初め儀左衛門。御歩から同小頭に進んで百石を領し、文化二年組外に列せられた。子孫相繼いで藩に仕へる。

マツバライツキ 松原一記 石川郡大野の人喜多勇松は、家を根布屋と稱し、算學を好んで邑民に教授し、文久二年喜多川五郎右衛門孟敦の名を以て算法礎を著した。時に年廿四。學系は詳かでない。後金澤に出で、福田氏を習し、慶應三年松原一太郎に養はれて、名を一記と改めた。明治三年九月藩吏となつて測量の事務に従ひ、六年算法礎を再刊し、廿八年十二月五十七歳を以て歿。その他の著に約術雜解があり、明治十二年今井隆平との

共編に入線要解がある。

マツバラオトシチロウ 松原乙七郎 明治二年八月山邊沖太郎等が本多政均を暗殺した時、松原乙七郎もその議に與つてゐたので、事後投獄せられたが刑を得なかつた。次いで四年十一月廿三日乙七郎は東京を發して九州に赴かうとしたが、遂にして本多氏の舊臣が故主の仇を報ぜん爲起つたことを聞き、大坂に潜匿して事なきを得た。

マツバラカツク 松原一二 通稱内匠。越中なる北浦石見守齊安の子。氏を改めて、慶長十六年前田利長に仕へ、千六百石を領し、大坂再役に背屋口で首一つを獲、寛永七年歿。子孫藩に世襲する。

マツバラカツナガ 松原一備 通稱右兵衛。善右衛門。初諱一龍。正徳三年養父爲兵衛一通の遺知七百石を襲ぎ、享保九年御先引頭となつて百石を加へ、遂に定番頭に至り、寶曆十二年致仕して本立と號し、明和七年閏六月廿五日八十五歳を以て歿した。

マツバラカトウジ 松原嘉藤次 大聖寺藩士。心陰流劍術の達人であつたが、後村井主殿の爲に退けられた。

マツバラキンダユウ 松原金太夫 知行二百石。大坂役にも従つた。是より五代の孫兵助の時、正徳三年流刑に處せられて家断絶した。金太夫の祖金太夫は府中衆であつた。

マツバラグチモン 松原口門 ↓アカズノモン 不開門。

マツバラジュエイ 松原壽詠 享保九年御醫師に召出され、十五人扶持を受け、十六年六十歳を以て歿。養子壽悦その後を受けた。マツバラシヨウサク 松原匠作 藩士茨木

源五左衛門の家臣松原信吾の子。初名信兵衛。和算を瀧川秀蔵に學んで允可を受け、後寶弟關口開と共に洋算を研究し、又天文航海の學に通じた。維新の後石川縣富山支廳長に任ぜられたことがあり、明治四十二年十一月十一日七十餘歳で歿した。

マツバラシンスケ 松原新助 父を嘉三右衛門といひ、弘化三年十二月を以て能美郡八幡に生まれた。初め窯業を其の居村なる橋本屋安兵衛に受け、更に出で、各地陶家の徒弟となつたが、已にして技漸く熟し、明治初年窯を清水の地に築き、三年之を八幡に移した。此の時金澤に阿部碧海がゐて、九谷焼を海外に輸出するを業とし、盛に新助に屬して造らしめた。之を本郡に於ける輸出向製品の嚆矢とする。是に於いて十二年前田利嗣は皇室に九谷焼を奉獻せんとし、新助をしてその任に當らしめた。爾後製陶に關する功績頗る多く、三十二年病を得て歿し、翌年賞勳局は銀盃を下賜して之を追賞した。

マツバラチヨウ 松原町 金澤の町名。もと松原口門の前につたからこの名を得た。松原口門は不開門のことである。寛永二十年城内東照宮に屬する別當寺を建立した時、松原町はその門前となつた爲、俗に御門前町と呼んだ。是より松原町の古名は絶えた如くなつたのを、明治四年四月復舊することにした。越登賀三州志に御門前町を金澤御坊の門前であつたからの稱とするのは悪からう。

マツバラハンエモン 松原半右衛門 前田利常に仕へて二百五十石を領した。子孫藩に世襲する。

マツバラヒヨウスケ 松原兵助 諱二百石、